

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12501
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2023
課題番号：20K14000
研究課題名（和文）ESDと教科固有のコンピテンシーを一体的に育成する中等社会科カリキュラム開発研究

研究課題名（英文）Curriculum Studies in Secondary Social Studies: Focused on Developing Subject-specific Competency along with ESD Competency

研究代表者
阪上 弘彬（Sakaue, Hiroaki）
千葉大学・教育学部・准教授

研究者番号：30791272
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ESD（持続可能な開発のための教育）の先進国ドイツ連邦共和国におけるラインラント＝プファルツ州およびノルトライン＝ヴェストファーレン州の統合型社会系教科カリキュラム、教科書の分析を通じて、ESDと社会系教科固有のコンピテンシーの関係性、コンピテンシーを育成するためのカリキュラム編成・学習設計の原理の解明を試みた。またその結果を踏まえて日本の中等社会系教科におけるESDカリキュラム・授業モデルを提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的・社会的意義は次に示す2点である。

第1に、ドイツおよび日本における社会系教科において、ESDが教科内の分野・科目間どのように関連付けられながら位置づけられているのか、またはなされていないかについてカリキュラムおよび教科書の分析から明らかにした点である。第2に、日本の社会系教科におけるESD実践に向けて、ESDのコアとなる考えの一つである「Think Globally, Act Locally」および近年ドイツの地理学習で採用されているUte Wardengaの提唱した異なる4つの空間概念を踏まえた授業プランを提案した点である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the relationship between Education for Sustainable Development (ESD) and social studies-specific competencies, and the principles of curriculum and learning design. To Propose ESD curriculum and lesson model for social studies subjects in secondary schools based on the above research results is also one of the purposes of this study. The researcher employed the following research methods: integrated social studies curriculum and textbooks analysis in Rhineland-Palatinate and North Rhine-Westphalia in the Federal Republic of Germany, a leading country in ESD, and lesson development.

研究分野：社会科教育学

キーワード：ESD 社会系教科 持続可能な社会 カリキュラム研究 教科書研究 ドイツ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、次に示す3点の研究動向および教育政策動向があった。

(1) 中等社会系教科のほぼすべての分野・科目に盛り込まれた ESD

2017/18 年告示の学習指導要領の前文では、「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられた。「持続可能な社会とその創り手の形成」を目的に展開してきた ESD (持続可能な開発のための教育) は、2008/2009 年告示の学習指導要領において登場し、2017/18 年告示の学習指導要領では ESD に関わる記述内容が増加した。

「持続可能な社会」をはじめとする ESD に関する文言は、2008/2009 年告示の学習指導要領では一部の社会系教科の分野・科目にとどまっていたが、2017/18 年告示の学習指導要領では社会科歴史的分野と公民科倫理を除いた分野・科目に盛り込まれた。これはほぼすべての中等社会系教科の学習において、ESD への取組が求められたことを意味する。その一方で ESD の理論・実践研究の蓄積は、『持続可能な社会をめざす地理 ESD 授業ガイド』(中山ほか、2012 年)をはじめとして、いまだに特定の科目・分野に偏っていた。

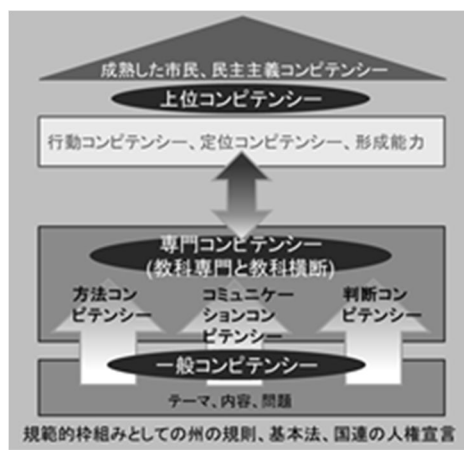
(2) ESD の能力・態度 (コンピテンシー) と教科固有のコンピテンシーの関連付けの必要性

ESD の実践にあたり、国立教育政策研究所によって、ESD を通じてはぐくむ資質・能力 (コンピテンシー) が提案され、ESD のコンピテンシーの育成を目指す社会系教科の授業開発もなされた (国立教育政策研究所、2012)。しかしながら ESD のコンピテンシーは汎用的 (通教科) なものであり、この育成のみが強調されると、社会系教科固有のコンピテンシーの育成が阻害されてしまう可能性がある。また『ESD 国際実施計画』によれば、ESD は持続可能な開発に関する価値観だけでなく、持続性についての科学的な理解・認識も求めている。つまり ESD の実践にあたっては、持続可能ではない社会構造や持続可能な開発を理解・認識するための教科固有のコンピテンシーと ESD のコンピテンシーとを関連付けて育成する必要がある。

現状において ESD のコンピテンシーの育成は、重要であると捉えられていながらも、ESD のコンピテンシーと社会科固有のコンピテンシーのつながり (関係性) そして社会科学学習においてその両者を有機的に関連付けて育成する学習のあり方は具体的には示されておらず、これらの点に社会系教科における ESD 実践の課題があると指摘できた。

(3) ESD と教科固有の両コンピテンシーが結びつくドイツの社会系教科カリキュラム

ドイツのラインラント＝プファルツ州 (以下、RP) では、古くから地理・歴史・ゾチアルクンデ (日本の公民に相当) が統合された中等社会系教科カリキュラムが採用され、PISA ショックを契機に、2016 年にはコンピテンシー志向のカリキュラムが導入された (図: RP 州社会科学科カリキュラムのコンピテンシーモデル; 阪上、2018)。そこでは連邦政府の教育研究機関 (BLK) によって開発された ESD のコンピテンシー (形成能力) が上位コンピテンシーとして、地理をはじめとする教科専門等のコンピテンシーが基礎部分に位置づく。また地理・歴史・ゾチアルクンデの全領域において ESD に関連したテーマが設定されている。つまり RP 州では、特定の領域に偏ることなく ESD の学習が展開し、また地理・歴史・ゾチアルクンデ固有のコンピテンシーの育成と関連付けられながら、ESD のコンピテンシーの育成がめざされている。



本研究で着目したドイツの社会系教科カリキュラムでは、ESD のコンピテンシーと教科固有のコンピテンシーを関連付けた育成がめざされ、それに基づくカリキュラムが編成されている。また研究代表者はこれまでの現地調査から、現地の研究者・教師は、ESD を地理だけでなく、社会系教科全体で取り組むべき重要な課題として捉えていることに気付いた。ESD 先進国であり、日本と同様に PISA ショックを受け、コンピテンシー志向のカリキュラム、学習指導改革に取り組むドイツの社会系教科に着目することは、日本の社会系教科での ESD 実践の課題を解決するにあたり、有益な示唆があると考え、本研究の計画・実施に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ESD のコンピテンシーと社会系教科固有のコンピテンシーを結び付けて育成をめざすドイツの統合型社会系教科カリキュラム、教科書や教材の分析、現地調査・授業見学を通じて、ESD のコンピテンシーと社会系教科固有のコンピテンシーの関係性、ESD のコンピテンシーと社会系教科固有のコンピテンシーを一体的に育成するためのカリキュラム編成・学習設計の原理を解明するとともに、日本の中等社会系教科における ESD 実践のためのカリキ

ユラム・授業モデルを提案することである。

3. 研究の方法

本研究では上述の目的を達成するために、以下の手順・方法で実施した。

なお本研究は当初3年計画での実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症により初年度(2020年度)から海外渡航(現地調査)が実施できなかったこともあり、1年間計画を延長、研究内容の変更・修正を行い、4年間で実施した。そのため以下の(3)は、研究開始当初は想定していなかったものであるが、前述の理由を受けて、設定した。

(1) コンピテンシーの関係性、ESDに関する内容編成原理の解明

RP州社会科学科カリキュラムおよびノルトライン＝ヴェストファーレン州(以下、NW)のゲゼルシャフトスレーレ(Gesellschaftslehre)カリキュラムにおけるESDのコンピテンシーおよび社会科固有のコンピテンシー関連性、ESDに関する内容編成の特質・原理を明らかにするために、カリキュラム等の資料収集、ESDの内容編成原理およびESDのコンピテンシーおよび社会系教科固有のコンピテンシーの関連性を検討・分析した。

(2) ESDと社会系教科固有のコンピテンシーを共に育成する学習指導原理の解明

ESDのコンピテンシーと社会系教科(地理、歴史、ゾチアルクンデ)固有の両者を一体的に育成する学習指導のあり方(原理)について明らかにするために、資料収集、RP州およびNW州検定済教材リスト掲載の社会系教科の教科書・指導書を検討した。

(3) 日本の社会系教科におけるESD研究の実態把握

主に日本国内の社会系教科およびESDに関わる学術誌を対象に、研究・実践の特質および課題を把握するために、システムティックレビューを実施した。

(4) 日本に対する示唆(カリキュラム・授業モデル)の提示を含む成果の発信

以上の成果を踏まえ、日本の社会系教科におけるESD実践のための示唆および研究の成果等を整理し、授業モデル等を発表した。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下に示す3点である。

(1) ドイツにおけるESDに関連した社会系教科における研究・実践の特質の把握

NW州中等教育前期ゲゼルシャフトスレーレの教科書『Projekt G』を対象に、教科内での連携およびESDに関連する学習内容編成・学習方法について分析した(日本地理教育学会第71回大会、2021年:全国社会科教育学会第71回全国研究大会、2022年)。さらに「教科の統合・連携」、「コンピテンシー」の視点からドイツのPISAショック以降における社会系教科の研究・教育動向を明らかにするために、各州初等・中等カリキュラムおよび主要学術誌雑誌を対象とした文献調査を行った(『社会科教育研究』、2022年、146号)。

またこれに加え、社会系教科の教科書を対象にESD等に関わる個別テーマからも分析を行い、学習の構造および特質を明らかにした(日本地理学会春季学術大会、2021年:『兵庫教育大学研究紀要』、第57巻、2022年)。

(2) 日本におけるESDに関連した社会系教科における研究・実践の特質の把握

日本の社会系教科研究・実践におけるESD研究のテーマ(ESDと社会系教科の関係、カリキュラム、コンピテンス、学習内容、教材、学習方法・アプローチ、授業改善の手法)特質と課題(特定分野・科目および環境のテーマに研究・実践が偏る、教師教育に関わる研究が少ない)を、システムティックレビューを用いて明らかにした(『レリバンスの構築を目指す令和型学校教育』所収)。

またこれに加えて、日本の中学校社会科地理的分野の学習指導要領にみられるESDを国研の示す7つの能力・態度および構成概念から整理・分析し、その結果を国際学会で報告した(EUROGEO conference Krakow、2023年)。

(3) 授業モデル等の発信

(1)および(2)の成果を参照しながら、社会系教科におけるESD実践のための授業モデルを示した。具体的には中学校社会科地理的分野を対象に、「Think Globally, Act Locally」の考えを踏まえ地理授業プラン(『社会科の「問題解決的な学習」とは何か』、2023年、所収)、4つの地域の見方を使って地域的特色・課題を追究する地理授業プラン(『新3観点の学習評価を位置づけた中学校地理授業プラン』、2022年、所収)を作成し・提案した。

なお課題は特定分野・科目に授業モデルの提案が偏ってしまったことであり、今後は他の科目・分野での授業モデルを提案していきたい。

また本研究で得られた研究成果は、学会発表や論文・書籍で報告するだけでなく、高校社会系教科に関わる教員研修会において講演の講師(宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会:「高校社会系教科と持続可能な社会づくり 知る・わかる・創るを視点とした授業アイデア」, 2023年)を担当するなど、学校現場・現職教員に対しての直接還元を務めた。

引用文献

国立教育政策研究所(2012):『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究 最終報告書』国立教育政策研究所。

阪上弘彬(2018):『ドイツ地理教育改革とESDの展開』古今書院。

中山修一・和田文雄・湯浅清治編(2012):『持続可能な社会をめざす地理ESD授業ガイド』啓文社。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 由井義通・阪上弘彬・横川知司・潘意涵・原田歩・劉暎一・沈彧馨・王・木村海斗・首藤慧真・村上正龍・徐敏諾・田淵雄一朗・溝口雄介・森俊輔・高亦揚	4. 巻 30
2. 論文標題 イギリス地理教科書における地域調査・フィールドワーク単元の分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/55110	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阪上弘彬	4. 巻 1270
2. 論文標題 ユネスコスクール 持続可能な開発のための教育と地球市民教育	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 112-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪上弘彬	4. 巻 146
2. 論文標題 PISAショック後のドイツの社会系教科教育における教育と研究動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科教育研究	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阪上弘彬	4. 巻 59
2. 論文標題 ドイツ中等社会科教科書における空間認識形成に関する学習単元『オリエンテーション』の分析ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 房総研究	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUENAGA Takuya, SEKI Hirokazu, SAKAUE Hiroaki	4. 巻 11
2. 論文標題 Improving Interactivity in Instructional Design by Developing an ICT-based Social Studies Plan: Case Study of Smart Agriculture in the National Strategic Special Zone of Hyogo Prefecture's Yabu City	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Social Studies Education in Asia	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 泉村靖治・徳島祐彌・阪上弘彬・池田匡史・山本真也・坂口真康・内海友加利・花輪 由樹	4. 巻 34
2. 論文標題 SDGs を題材としたリフレクションを促す中堅教員研修 - 研修プログラムデザインのデザインおよび受講者による研修評価 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫教育大学学校教育学研究	6. 最初と最後の頁 177-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南埜猛・松尾陽平・阪上弘彬・大津留麻代・村上恵美	4. 巻 60
2. 論文標題 「地理総合」導入に向けた教員養成・研修における教育プログラムに関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 111-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 由井義通・熊原康博・阪上弘彬・トウ亜齋娜・横川知司・藩意涵・孟瑜・陶子・岩佐佳哉・原田歩・劉曉一・沈或馨・鄧竹珂・清水優生・住谷侑也・近沢菜々子・中村光希・王	4. 巻 28
2. 論文標題 国際バカロレア地理教科書Oxford University Press 『Oxford IB Diploma Programme: Geography』における人口単元の内容分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪上弘彬	4. 巻 57
2. 論文標題 地理における「持続可能性/持続可能な開発」の考え方の位置づけと指導 イギリスおよびドイツの中等教育前期地理教科書の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫教育大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 195-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪上弘彬	4. 巻 72
2. 論文標題 2019年学界展望 地理教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 245-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.72.03_245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件(うち招待講演 6件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 一貫地理カリキュラムにおける地誌学習はいかにあるべきか ドイツの地理教育の分析
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 持続可能な社会に向けたESDの役割
3. 学会等名 広島SDGsコンソーシアム第2回研修会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 高校社会系教科と持続可能な社会づくり 知る・わかる・創るを視点とした授業アイデア
3. 学会等名 宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 YUI Yoshimichi, SAKAUE Hiroaki, & MURATA Sho
2. 発表標題 Current situation and issues in primary geographical education in Japan
3. 学会等名 EUROGEO conference Krakow 2023(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 SAKAUE Hiroaki
2. 発表標題 Characteristics of education for sustainable development in junior high school geography in Japan: content analysis of the national curriculum standards
3. 学会等名 EUROGEO conference Krakow 2023(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 持続可能な社会に向けた社会系教科教育研究・実践の成果と展望
3. 学会等名 第7回広域科学教育学会大会(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 高校地理と持続可能な社会づくりー知る・わかる・創るを視点とした地理の授業づくりー
3. 学会等名 千葉県高等学校教育研究会 地理部会 春季研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅川俊夫、今野良祐、阪上弘彬、高木優、山本隆太
2. 発表標題 WEBアンケートの集計結果報告と分析
3. 学会等名 2022年度日本地理教育学会第72回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツ 地理教授学における ESD の研究動向 『地理教授学雑誌』のレビューを中心に
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツのゲゼルシャフトスレーレにおけるESDの構造と特質 - NW州教科書Projekt G Gesellschaftslehreの事例分析 -
3. 学会等名 全国社会科教育学会第71回全国研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAKAUE Hiroaki, YUI Yoshimichi, & MURATA Sho
2. 発表標題 How Does Geography Learning in Japan Deal with Sustainable Development: Analysis of the National Curriculum Revised in 2017/2018
3. 学会等名 EUROGEO 2021 Conference Sustainable Development for All (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツ・NW 州中等教育教科書Projekt G Gesellschaftslehre の特徴 - 地理・歴史・公民の統合・関連付けに着目して - .
3. 学会等名 日本地理教育学会第71回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SUENAGA Takuya, SEKI Hirokazu, & SAKAUE Hiroaki
2. 発表標題 Developing a Social Studies Plan using ICT to Improve Interactivities in Instructional Design: Case Study of “Japanese Agriculture: Smart Agriculture in the National Strategic Special Zone of Yabu City in Hyogo Prefecture” in the 5th grade of elementary school
3. 学会等名 Annual Meeting of International Social Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツ中等社会科教科書における空間認識形成に関する学習 - 単元「オリエンテーション」の分析 -
3. 学会等名 千葉地理学会2021 年度研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツの社会系教科科学習におけるESD 実践と評価
3. 学会等名 令和3年度大学連携セミナー SDGs 研修会：ESD，SDGs をどう評価するか - 学校における実践と評価の在り方（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 ドイツ中等社会科教科書における単元「気候変動」の特質 - 防災学習の視点からの分析 -
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山内洋美・阪上弘彬
2. 発表標題 持続可能な開発の考え方を学ぶ高校地理授業－学習者の成果の検証－
3. 学会等名 日本地理教育学会第70回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪上弘彬
2. 発表標題 社会系教科教育におけるESDに関する研究の傾向と課題 - システマティックレビュー -
3. 学会等名 社会系教科教育学会第32回研究発表大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 唐木清志編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 166
3. 書名 社会科の「問題解決的な学習」とは何か	

1. 著者名 関浩和・吉川芳則・河邊昭子編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 394
3. 書名 レリバンスの構築を目指す令和型学校教育	

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 國分麻里・川口広美編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 中等社会系教育	

1. 著者名 吉水裕也編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 新3観点の学習評価を位置づけた中学校地理授業プラン	

1. 著者名 伊藤直之編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 地理歴史授業の国際協働開発と教師への普及－資質・能力の多様性と学際性を視点として	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------